

抗がん薬を投与される患者さん、ご家族(介護者)の皆さまへ

- 抗がん薬の中には、がん細胞に対しては殺細胞作用がある反面、ごくまれですが、健康被害を引き起こす可能性のある薬剤があります。
- 抗がん薬に直接触れたり、吸い込んだりすることで、皮膚や粘膜・気道から吸収される可能性があります。また抗がん薬は投与後しばらくの間、患者さんの排泄物やごくわずかですが体液(汗やだ液)に含まれて排泄され、間接的に抗がん薬に触れてしまうこともあります。
- これらにより吸収される抗がん薬は極めて低用量であり、接触による人体への健康被害は十分に解明されていませんが、できる限り軽減したほうがよいと考えられています。
- 可能な範囲でよいので、ご自宅で以下の対策を取っていただくことをお勧めします。



【対策を取る期間について】

- 点滴や内服抗がん薬を投与された日から投与を終えた日までの2日間です。
- ただし下記の薬剤については、7日間対策をとることをお勧めします。
・エピルビシン ・シスプラチン ・ゲムシタビン ・ドセタキセル ・ドキソルビシン
・エンドキサン ・オンコビン ・エトポシド ・ブレオ

【対策】

■ 内服抗がん薬の取り扱い

- 内服抗がん薬は出来るだけ患者さん自身で取り出し、服用して下さい。内服後の薬の包装は、他の人が触れないように廃棄します。
- 抗がん薬を粉砕したり、割ったり、カプセルを開けないようにします。
- 抗がん薬は、患者さん以外の人、特にお子さんや妊娠中の方が触れないように保管場所に注意します。
- 内服後は石鹸と流水で手洗いをしてください。患者さん以外の方が取り扱う際には、手袋やマスクを着用します。
- 使用済みのマスクや手袋は、外側を触らないように外してください。手袋は裏返しにして使用済みのマスクと共にビニール袋に入れ、密封して燃えるゴミに廃棄します。



■ 排泄について

- 治療後 48 時間は尿器やおむつの使用はできるだけ避け、トイレで排泄するようにします。
- 男性の方も、尿の飛び散りを防ぐために便座に腰かけて排尿します。
- 尿がこぼれた場合は、トイレトペーパーできれいにふき取ってトイレに流します。
- ご自宅では、使用後のトイレは飛び散りを防ぐために、トイレの蓋をして水を流します。
節水型のトイレを使用の場合は、水を 2 回流した方がよいとされています。
- 排泄後は、トレイ用消毒シートなどを使用し便座やふちを拭き取るようにするとより良いとされています。
- ストーマ用品やオムツを取り扱う際は、手袋やマスクを着用し、ビニール袋に入れ密封し、全て燃えるゴミに廃棄します。



■ 洗濯について

- 通常の洗濯物はご家族の物と一緒に洗濯して頂いて構いません。
- 排泄物や多量の体液(嘔吐物・汗)が付いた洗濯物は、手袋やマスクを着用し、単独で予洗いしたのち、通常の洗濯を行います。洗濯には洗濯機を使用して頂いて構いません。

困ったことや分からないことがありましたら、
下記へご連絡ください。

刈谷豊田総合病院 化学療法センター
Tel 0566-25-8009 (直通)
受付時間 8:30~16:45 (月~金曜日)
8:30~14:00 (第1, 3土曜日)

